

東大阪

ながたじんじや 長田神社

長田村の中央字相生と呼ばれる場所に鎮座する長田神社には、品陀和気命（応神天皇）、息長足姫命（神功皇后）、多紀理毘賣命の三神を祀っており、神社の北方には、字意伎宮屋敷、弓場と呼ばれる場所があり、神社が焼失したため現在地に移されたといわれる。後醍醐天皇の命で905年に編集が開始された法令集で、延喜式50巻中の巻9・10の神名帳は豊作祈願の行事で供物を下賜する3132座の神社の一覧に記載されており延喜式内社といわれる。木造平屋建て、本殿と拝殿との間に相の間の空間を配置する平面構成を1棟の建物とするため複雑な屋根を架けた社殿である。拝殿の屋根は入母屋、平入りで、本殿は流れ造りの屋根形とし、本殿と拝殿の棟はお互い平行であり、相の間はこれに直角に架け渡し



本殿



鳥居



本殿と燈籠

所在地：東大阪市長田2-8-18
最寄駅：市営地下鉄長田駅下車 徒歩10分
参考資料：長田神社研究会2007年・境内揭示板
東大阪市教育委員会

て両下げの屋根である。境内には浄土宗の堂「摂取庵（子安地藏）」があり、鎌倉時代末期の木造地藏菩薩立像（像高91cm）が安置されており、昭和49年（1974年）3月25日に東大阪市文化財保護条例により有形文化財に指定されている。大鳥居には台輪があり台輪鳥居といわれる様式で、稲荷神社に多く、稲荷鳥居とも呼ばれる。二本の柱と貫が木製で造られ、笠木には屋根が設けられている。宮座行事の名残で2年に一度12月20日前後に注連縄が鳥居にかけられる。境内の燈籠一対は、高さ約2.9m、慶応3年（1867年）12月に建てられた「おかげ燈籠」があり、伊勢神宮参宮が、ほぼ60年おきに遷宮が行われる年の参宮の記念物であり文化財として大切に守られている。（山根富子）